様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　４ 月 ２５ 日現在

機関番号：２３９０１
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ２３０４５

研究課題名（和文）労働者階級出身の作家ウェストールによる児童文学作品の日英における受容の比較研究

研究課題名（英文）A Comparative Study of British and Japanese Reception of Children's Books by a Working-Class Writer Robert Westall

研究代表者
瀧内　陽（Takiuchi, Haru）

愛知県立大学・外国語学部・准教授

研究者番号：００８４６７０１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はイギリスの労働者階級出身作家ロバート・ウェストールの児童文学作品の日本での翻訳と日英における受容についての研究である。ウェストールの小説の翻訳については、国際児童文学学会（IRSCL）の第25回大会で2021年10月に口頭発表を行い、その研究を発展させて英語論文を完成させ、児童文学の国際査読誌Children's Literature in Educationに投稿、掲載が決定した。ウェストールの『“機関銃要塞”の少年たち』の受容研究については、日本イギリス児童文学会(英語圏児童文学会に改称）の第49回および第50回研究大会で口頭発表を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、まず、ウェストールの作品に描かれるイングランド北東部の労働者階級の方言が、日本の翻訳でどのように翻訳されているのかを分析し明らかにしたが、この翻訳研究は、英日翻訳研究の分野でも児童文学研究の分野でもこれまでほとんど行われていない労働者階級方言の日本における翻訳の研究であり、両分野への大きな貢献となる。また、ウェストールの『“機関銃要塞”の少年たち』の日英における受容の研究は比較文学研究と児童文学研究への貢献となり、さらには第二次世界大戦後の日本とイギリスの文化理解につながる。

研究成果の概要（英文）：This research examines Japanese translations and British and Japanese reception of British working-class writer Robert Westall's novels for children. I gave an oral paper on Japanese translations of Westall's novels at 25th Biennial Congress of the International Research Society for Children's Literature in 2021. An English paper, based on this oral presentation, has been accepted for publication by Children's Literature in Education, an international peer-reviewed journal of children's literature. My studies on critical reception of Westall's The Machine-Gunners in Japan and in Britain were presented at the 49th and 50th conferences of The Japan Society for Children's Literature in English.

研究分野：イギリス児童文学

キーワード：イギリス児童文学　翻訳研究　受容研究　比較文学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

イギリス児童文学における階級の研究は近年国内外で注目を集めており、また、イギリス児童文学の翻訳研究は特に日本で盛んに行われてきたが、階級に注目した翻訳研究や、日本での受容を階級に注目して分析した研究はまだなかった。ロバート・ウェストール(Robert Westall, 1929-1993)の作品は、階級文化の問題からイギリスでは批判されることが多かった一方で、日本では問題視されることなく賞賛されてきた。しかし、翻訳と受容を階級に注目し分析した研究が行われていないため、対照的な評価が生まれた理由は解明されていなかった。

２．研究の目的

本研究では、北東イングランドの労働者階級の人々を描いたウェストール作品の英日翻訳の分析と日英での受容の比較分析を行うことによって、異なる受容を生みだした 20 世紀後半の日本とイギリスの児童文学の特質を歴史的文化的背景とともに解明することを目的としている。

３．研究の方法

本研究では、ウェストールの小説とその翻訳、及び日英における受容史の分析を行う。英語文学作品の日本での受容を理解するためには、まずは日本語翻訳の分析が必要となる。そのため、まずは、ウェストール作品の翻訳の分析を行い、翻訳によって何が変更されているのか、あるいは、どのようにしてもとの文章の特徴が再現されているかを明らかにする。

次にイギリスと日本におけるウェストール作品の受容とその背景を明らかにする。このためには、ウェストールの作品のイギリスでの受容を示す資料と日本での受容を示す資料を両方集め分析する必要がある。ウェストールは日本でよく読まれている児童文学作家だが、受容史研究は行われていない。そのため、1970 年代末以降の日本の児童文学関係者など、ウェストールに関心をもっていた様々な人物の著作をあたって書評などを集め分析を行う。そして、日本とイギリスにおけるウェストールの作品の受容の比較を行う。この比較研究のためには、日英の戦後児童文学の特徴と、それを形作る歴史と文化に関する研究も必要となる。

上記の研究を行うためには書評等の資料収集調査が必要であり、また、戦後の日英児童文学に関する広範な資料文献にあたる必要がある。そのために、国内外の図書館等での調査研究が望ましい。しかし、新型コロナウイルスの影響で国外での研究が難しい状況にあったため、資料収集のための出張は東京にある国立国会図書館国際子ども図書館のみにとどめ、イギリスに関して必要になった資料はインターネットを通じて購入することで集めた。

４．研究成果

本研究では、ロバート・ウェストールの児童文学作品の日本語翻訳の分析、そして日本とイギリスでの批評家の受容についての分析を行った。翻訳研究と受容研究は並行して進めたため、研究発表は前後しているが、まずは翻訳研究の成果について述べる。ウェストールの小説に描かれる北東イングランドの労働者階級方言の翻訳については、児童文学分野で世界最大の国際児童文学学会（International Research Society for Children's Literature）の隔年開催の国際会議で 2021 年 10 月（2021 年度は新型コロナウイルスの影響でオンライン開催）に“Japanese Translations of Robert Westall’s Novels set in the North-East of England: Translation of Working-Class Language and Culture”という題で口頭発表を行った。その研究を発展させて、2022 年に英語論文“The Translation of Working-Class Speech and Culture in Japanese Translations of Robert Westall’s Novels Set in North–East England”を、国際査読誌 *Children's Literature in Education* に投稿、掲載が決定した。

この研究では、第二次世界大戦下の北東イングランドを舞台にするウェストールの一連の作品で、北東イングランドの労働者階級方言（Geordie）が、日本の翻訳でどのように翻訳されているのかを分析し、異なる年代に出版された翻訳の特徴を明らかにした。具体的には、例えば 1980 年に出版された『“機関銃要塞”の少年たち』（*The Machine-Gunners*, 1975）では、地域方言はほとんど用いられないものの比較的忠実に原文の特徴を再現しようとしている。一方、1994 年に翻訳が出版された『海辺の王国』（*The Kingdom by the Sea*, 1990）、2009 年に翻訳が出版された『水深五尋』（*Fathom Five*, 1979)と、時代が下るにつれ、労働者階級方言話者と標準語話者のセリフの特徴が翻訳に反映されないようになり、特に労働者階級女性の場合は女言葉が強調される傾向にあることを明らかにした。労働者階級方言の翻訳研究は、英日翻訳研究の分野でも児童文学研究の分野でもこれまでほとんど行われていなかった研究であり、両分野への大きな貢献とな

った。

受容研究は、ウェストールの第 1 作『“機関銃要塞”の少年たち』の日英の批評家たちの受容に焦点をしぼって行った。この受容研究については、まずは 2019 年に日本イギリス児童文学会(英語圏児童文学会に改称）の第 49 回研究大会で、「ロバート・ウェストール『“機関銃要塞”の少年たち』の日本における受容」という題で口頭発表を行い、その翌年、同学会の第 50 回研究大会で日本とイギリスにおける受容の比較について、「戦争を描いた児童文学としての *The Machine-Gunners*：日英における受容の比較」という題で口頭発表を行った。研究開始前の予想では、1960 年代以降の日英児童文学における左派イデオロギーの影響が明らかになるのではないかと予想していたが、実際に資料を集め分析をしてみたところ、もっぱら第二次世界大戦の経験と戦争観や平和教育の影響、日本児童文学における戦争児童文学というジャンルの確立、等が日英での受容の違いに大きく寄与していることが明らかになった。この研究についても英語論文を作成しており、2023 年度に児童文学分野の国際査読誌に投稿する予定で準備中である。受容研究自体は比較文学研究では盛んに行われてきたが、受容を比較する研究の割合は高くはなく、さらに児童文学の比較文学研究は近年増加傾向にあるものの依然研究不足が指摘されており、この研究は比較児童文学研究としてまだまだ希少な試みである。また、日本児童文学についての研究は国内では盛んに行われているものの英語論文はとても少なく、海外の研究者にはあまり知られていない。そのため、この論文が刊行されれば、比較文学研究と児童文学研究の両分野への重要な貢献となるだろう。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 Takiuchi Haru	４．巻 -
２．論文標題 The Translation of Working-Class Speech and Culture in Japanese Translations of Robert Westall’s Novels Set in North-East England	５．発行年 2022年
３．雑誌名 Children's Literature in Education	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10583-022-09491-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Haru Takiuchi
２．発表標題 Japanese Translations of Robert Westall’s Novels set in the North-East of England: Translation of Working-Class Language and Culture
３．学会等名 25th Biennial Congress of the International Research Society for Children's Literature（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 瀧内陽
２．発表標題 戦争を描いた児童文学としてのThe Machine-Gunners：日英における受容の比較
３．学会等名 英語圏児童文学会第50回研究大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 瀧内陽
２．発表標題 ロバート・ウェストール『“機関銃要塞”の少年たち』の日本における受容
３．学会等名 日本イギリス児童文学会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関